

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和3年5月号



全農千葉県本部園芸事業の取組

全国農業協同組合連合会千葉県本部
園芸部長 櫻井 剛志

全農千葉県本部では、3か年計画最終年度である事を踏まえ、過去2年間における取組課題を整理しつつ重点実施策や実行具体策を実践するとともに、全農自己改革の取組を進めます。また、「農業生産の拡大」と「農業者の所得増大」のため、以下の具体的な取組を実践します。併せて、新型コロナウイルスの影響による「新たな生活様式」に対応するため、SNSやマスコミを利用した販売促進活動を展開します。

全農千葉県本部では、生産基盤を強固にし、安全・安心で美味しい青果物・花きの生産振興と、大消費地に近い立地条件を活かした販売力強化を図るため、千葉県・(公社)千葉県園芸協会と連携し、「オール千葉」体制にて次の重点実施策に取り組めます。

1 生産拡大対策

- (1) 出荷量の多い主要7品目の生産拡大を推進することにより、市場への安定供給を行うとともに、実需者から求められる産地づくりに取り組めます。また、地域特産品目(レタス・菜花・枝豆・大和芋・西瓜等)は、生産量の維持・拡大を図りつつ計画的な販売に取り組めます。
- (2) 出荷規格の統一・簡素化を進め、生産者の出荷時の負担軽減や、販売ロットの拡大による「オール千葉」体制の強化を図ります。
- (3) 新型コロナウイルスの影響により外食産業が厳しい状況となっている状況に対応するため、青果物の加工・業務用需要に対し、輸入から国産への切替を図るため、実需者からの要望に応じたマーケットインによる生産振興を進めます。
- (4) 千葉県農業者総合支援センターやJA-TACと連携し、地域農業を担う経営体に対して、実需者ニーズに基づく生産・販売提案を行います。

2 販売力強化対策

- (1) 人口3,800万人を有する東京圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県)を主なターゲットエリアとして、近県という立地を活かした鮮度の良い青果物を供給する事で販売力強化に取り組めます。また、パートナー市場と販売戦略を共有し、取引先を明確にした予約相対取引(市場契約)並びに別枠発注販売

(先売り)の契約の販売を拡大する事で生産者の所得増大に取り組めます。

- (2) 産地から東京圏内の実需者配送拠点に鮮度の高い青果物を直納することにより、量販店等の顧客を囲い込み、安定した販路を確保するとともに、配送コストの削減による生産者の手取り向上に取り組めます。
- (3) 千葉県産青果物を重点的に取り扱う販売店で産地宣伝を継続的に行い売場の確保とイメージアップを図ります。
- (4) 新型コロナウイルスの影響による国民の「新たな生活様式」に対応するため、SNSやマスコミを利用した販売促進活動を展開し、直接消費者に本県産青果物の消費を促す取り組みを行います。

3 直販事業の強化

- (1) 新型コロナウイルス拡大の影響による内食化が進行した事での消費形態の変化や多様化する実需者ニーズに対応し、加工・業務用向けの安定供給と取扱拡大に取り組めます。
- (2) 直接取引や中間事業者を経由した取引等、複数の販売方法により販路を確保するとともに、パッケージ集配送機能の強化等による量販店対応に取り組めます。
- (3) 協同組合間提携を踏まえ、商品開発・生産振興・産地交流を進め、生協向け販売を拡大します。

4 県産農産物の輸出促進

世界的な新型コロナウイルスの影響が出ているにも関わらず、海外からの国産品に対する要望が強いため、輸出海外市場ニーズに対応した輸出向け品目の生産振興により、輸出事業に取り組むJAの拡大を図り、県産農畜産物の安定的出荷体制を構築します。



11月どりキャベツの優良品種の選定

千葉県農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所
東総野菜研究室 研究員 大川 佳織

第68回千葉県野菜品種審査会においてキャベツ夏まき秋どりの優良品種として「初恋」、「THY-105」（ともに(株)トーホク)、「TC9213」((株)渡辺採種場)、「SHC-1402」(山陽種苗(株))、「YR春系536」((有)石井育種場)の5品種が入賞しました。

1 はじめに

千葉県におけるキャベツの産出額は79億円で、全国第3位(平成30年生産農業所得統計)です。11月中旬に収穫する作型では、近年の異常気象により黒腐病及び菌核病等の発生増加が問題となり、対策が望まれています。そこで、東総地域で11月中旬に安定して収穫ができ、各種病害の発生が少なく収量性に優れた春系キャベツ品種の選定を目的に審査会が開催されました。ここではその結果を紹介いたします。

2 栽培の概要

審査会の出品点数は17品種でした。栽培は令和2年8月5日に128穴セルトレイへ播種し、パイプハウス内で育苗した後、8月31日に畝間60cm、株間35cmで定植しました。

9月23日、10月7日に台風対策としてハイブリット寒冷紗((株)クラレ、クレモナ®寒冷紗)を用いた被覆を行いました。各日ともに台風の被害がないことを確認後、被覆を除去しました。その後の生育も順調で、どの品種も菌核病や黒腐病等病害の発生は少ない状況でした。

3 審査結果

11月13日に審査員21名で立毛及び収穫物の審査を行いました。その結果、「初恋」、「THY-105」、

「TC9213」、「SHC-1402」、「YR春系536」の5品種が入賞しました。

特に、「初恋」は球の高さが低い平玉で、肥大、揃いともに優れ、結球重が平均1,500gと供試品種の中で最も肥大が良い結果でした。「THY-105」は、外観は「初恋」と似て平玉傾向ですが、収穫期は「初恋」よりやや遅めです。「TC9213」、「SHC-1402」及び「YR春系536」は球高が12~13cmと甲高の品種でした。

令和3年3月現在、「初恋」は一般販売中、「THY-105」は試交番号名で販売中ですが、今後品種名がつく予定です。他の品種は販売未定となっています。

4 おわりに

夏まき秋どりのキャベツでは、近年台風等の被害も多いことから、強風や各種病害に強く、収量性に優れた春系品種の選定が重要です。上記の品種を導入し、安定した収穫、出荷につなげていきましょう。



写真 1位の「初恋」の収穫物

表 入賞品種の審査得点と収穫物調査結果

順位	品種名	出品社名	審査得点			結球重 (g)	長径 (cm)	球高 (cm)
			立毛	収穫物	合計			
1	初恋	(株)トーホク	83.6	254.6	338.2	1,500	21	11
2	THY-105	(株)トーホク	78.9	243.4	322.3	1,149	20	11
3	TC9213	(株)渡辺採種場	80.5	239.8	320.3	1,103	19	12
4	SHC-1402	山陽種苗(株)	78.5	241.3	319.8	1,276	21	12
5	YR春系536	(有)石井育種場	78.4	241.0	319.4	1,097	19	13

注1) 立毛審査は100点満点、収穫物審査は300点満点

注2) 収穫物調査は令和2年11月13日(審査当日)に実施した

注3) 収穫物調査は1区11株2反復の平均値を示す

野菜ニュース



東葛飾地域における環境制御技術の活用による トマト生産性向上の取組

東葛飾農業事務所 改良普及課
(執筆者: (現)千葉農業事務所 改良普及課
普及指導員 柏崎 佑二)

東葛飾地域では、点在する促成トマト生産者が個々に環境制御技術に取り組んできました。そこで、令和2年度に研修事業を活用して、技術指導とともに生産者相互の連携によるトマトの生産性向上に取り組みました。

1 取組の背景

東葛飾地域では、環境制御技術に高い関心を持つ一部の生産者でモニタリング装置等を活用した環境制御技術が導入されていますが、直売を主体とする販売方法のため生産者相互のつながりが少なく、生産者が個々に技術の改善を図っていました。

そこで、船橋市2戸、流山市2戸の促成トマト生産者と、2JA、市、農業事務所によるチームを結成して、令和2年度「みんなで学びあう施設園芸スマート農業普及促進事業」に応募し、技術の向上に取り組むとともに、生産者相互の連携を図ることにしました。

2 研修会の開催状況

研修会では、講義で栽培の骨格となる理論を教わるとともに、チーム員のは場を実際に見ながら指導を受けました。

土耕栽培と養液栽培、施設の装備など、チーム員により栽培条件は異なりますが、トマトの生理や施設環境に関する科学的な講義を受け、それぞれの生産に応用することができました。



実際に施設や植物を見ながらの指導

ほ場では、トマトの状態や施設環境を見ながら、温度管理やかん水の量、摘葉、摘花などについて具体的に指導を受けました。

被覆資材やカーテンの設置状況、軒高など、施設環境は個々に異なりますが、自身のは場の状況に合わせた管理について現地で教わることで、管理方法の改善点について具体的に検討することができ、講師への質問も活発に行われました。

さらに、環境制御技術に早くから取り組んでいる生産者の管理方法について共有するとともに、普段交流がない生産者同士が相互には場を見ることで、管理方法やトマトの生育状況について、周囲と比較して確認することができました。



講義で栽培管理の理論を学ぶ

3 今後について

今回の事業により、チーム員が栽培管理の知識・技術を向上させるとともに、それぞれの生産の課題を把握することができ、事業をきっかけに新たにモニタリング装置を導入した生産者もいました。

今後は明らかになった課題の解決を図るとともに、相互の技術研さんを行うことでトマトの収量・品質の向上に取り組み、さらなる経営発展を目指します。

頑張る産地



長生ねぎ産地のチャレンジ — 新規生産者の確保と生産体制の強化 —

長生農業事務所 改良普及課
普及指導員 小林 良旭

長生地域のねぎ産地では、生産者、関係機関が一丸となって課題を整理し、産地再構築に取り組んでいます。特に優先順位の高い「担い手の確保」と「収量・品質の向上」を実現するため、新規生産者の増加と定着を図るとともに、生産・出荷に関する組織活動の強化に取り組んでいます。

1 背景及びねらい

JA 長生のねぎ出荷者は、高齢化や後継者不足などにより、平成18年の約140名から、平成24年には101名と3割程度減少しました。そのため、JA 長生、長生農業独立支援センター、生産者の団体であるJA 長生ねぎ協議会、長生農業事務所等の関係機関が協力し、新規ねぎ生産者の発掘と定着による担い手の確保を目指しています。

また、出荷量や品質を安定させるため、JA 長生が運営する出荷調製施設の生産ラインを強化するとともに、単収の増加及び省力化を図るため、中苗を移植するセル苗移植技術の普及を推進しています。

2 活動の内容

(1) 新規生産者の増加

上記関係機関で連携し、地域内の水稻農家や葉たばこ農家に対してねぎ栽培を呼びかけました。また、農業大学校や就農相談会などで新規就農者も募っています。

就農後の技術習得をサポートするため、一年間の主要作業を学ぶ農業塾（ねぎコース）を年7回開催するとともに、地域の出荷部会への参加を促し、出荷部会ごとに講習会やほ場巡回を開催しています。また、JA 職員と農業事務所職員が連携し、新規生産者への個別指導も強化し、栽培管理に関するフォローも適時に行っています。

結果、平成28年以降も新規生産者は毎年数名ずつ増えており、高齢でねぎ栽培をやめる人がいても地域全体の生産者数は維持されています。また、ここ数年は、生産があまり盛んではなかった白子町や長生村など海側の地域で生産者が増える傾向です。

(2) 出荷調製施設の生産ライン改善

JA 長生では、平成27年からねぎの出荷調製施設を運営しています。しかし、生産者の期待とは逆に、施設の利用者や処理数量は増えませんでした。

そこで、県単事業を活用して高性能根葉切り皮剥き機を導入し、品質の向上とライン稼働に要する従業員の削減を図るなど、運営改善に取り組んでいます。現在も課題は多く残っているため、今後も関係機関と協力し、より効率的な施設運営を検討していく予定です。

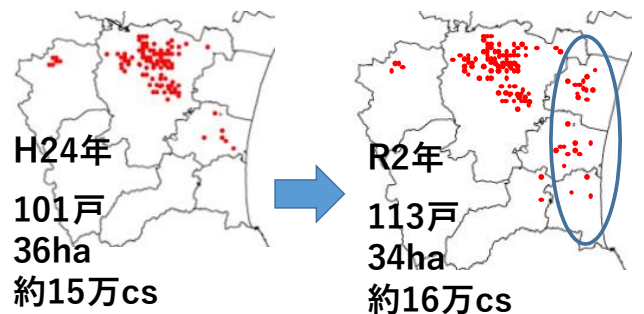
(3) セル苗移植機の普及

本産地はチェーンポットによる定植が主ですが、近年、大雨や干ばつ等による生育不良が課題となっています。そこで、畑での欠株率が少なく、定植作業の省力化が図れるセル苗を活用した定植機の利用拡大を進めています。また、セル苗の共同育苗の体制も適宜見直しています。

令和3年産では、セル苗定植が産地全体の5割になると見込まれ、今後の安定出荷につながると期待されます。

3 将来の方向と課題

長生地区のねぎ生産者は、約40%が栽培開始8年以内です。当面はこの新規生産者が所得を上げられるよう、栽培技術の向上を図っていく必要があります。併せて、共同育苗や出荷調製施設等の運営改善も進めます。今後も、時代の変化に対応できるように、生産者と関係機関が課題を共有し、産地再構築に向けてチャレンジしていきます。



長生地域の H24 年と R2 年の生産者の分布と生産量



技術取得をサポートする農業塾

野菜ニュース



「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業 (スマート農業推進型)の拡充について

千葉県農林水産部生産振興課
園芸振興室 副主査 江澤 和哉

『「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業』のスマート農業推進型の補助対象に「自動換気システム」や「ドローン」等が追加されました。より多くの園芸生産者が活用できる内容となりましたので、生産性向上につながるスマート農業にチャレンジする際には是非御活用ください。

『「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業』では、ICT等の活用により生産性を向上させることを目的として、平成30年度から「園芸施設スマート農業推進型」を開始し、既存の園芸施設への環境モニタリング装置や炭酸ガス施用装置等の導入について支援しています。県では、スマート農業の取組を一層拡大していくため、令和2年度に「千葉県スマート農業推進方針」を策定しました。そこで、令和3年度の本事業では、露地栽培も含め、更に幅広い生産者を支援するため「スマート農業推進型」に名称を変更し、補助対象を下記のとおり拡充しました。

1 実施主体

認定農業者、認定新規就農者

2 対象品目

園芸品目（野菜、果樹、花き、植木等）

3 補助対象

＜環境制御関連装置（施設栽培）＞

- ①環境モニタリング装置
- ②炭酸ガス施用装置、炭酸ガス濃度制御装置、循環扇
- ③日射等連動かん水システム ④ミスト装置
- ⑤複合環境制御装置

⑥自動換気システム

＜主に露地栽培＞

- ⑦ドローン ⑧気象観測装置
- ⑨ロボット草刈機(リモコン式含む)
- ⑩アシストスーツ ⑪その他スマート農業機器等

(⑥～⑪が拡充部分です)



自動換気システム



ドローン

※1 パソコンやスマートフォン、タブレット端末等の機器及び通信費等は補助対象外とします。

※2 環境制御関連装置（施設）は、環境モニタリング装置の導入を必須とします。ただし既に導入されている場合はその限りではありません。

（昨年まで必須としていた炭酸ガス施用装置の導入要件は削除となりました）

※3 環境モニタリング装置は、温度や湿度、炭酸ガス濃度等の複数の項目をリアルタイムで測定及びグラフ化できる性能を有するものとします。

※4 ロボット草刈機及びアシストスーツは、「スマート農業推進型」の他の機械装置と組み合わせて導入する場合に限り（ただし両者の組み合わせは不可）。

4 補助率

1/3以内（但し事業費の上限は300万円未満）

5 「園芸産地生産性向上計画」の策定

各産地が園芸品目の生産性向上ビジョンを策定した「園芸産地生産性向上計画」に位置づけられた生産者が本事業を行うことができます。産地の規模は、構成農家数3戸以上、同一品目の面積がおおむね1ha以上とします。

6 生産改善目標

①単位面積あたり収穫量、②栽培面積、③労働生産性（生産量÷労働時間）のいずれか1つを目標年次（事業実施から3年後）までに10%以上増加することとします。

7 応募時期

令和3年度については、補助金配分予定額が満額に達していないことから、追加募集を実施します。募集期間についてはお問い合わせください。なお、事業実施にあたっては市町村の予算措置が必要であり、申請は市町村を經由して農業事務所企画振興課へ提出となります。

8 問合せ先

最寄りの各農業事務所 企画振興課 もしくは
農林水産部生産振興課 園芸振興室
TEL：043-223-2882

千葉県立農業大学校オープンキャンパス・1日体験入学の開催について

農業大学校の授業や実習を見学・体験しませんか。千葉県立農業大学校
キャンパスツアーでは、学生寮、農場、畜舎などの学校設備を御案内します。

申込方法：ホームページより様式をダウンロードして
お申込みください。
本校 HP <https://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>
メール noudai01@mz.pref.chiba.lg.jp

問合せ先：千葉県立農業大学校農学科
〒283-0001 東金市家之子 1059
電話：0475-52-5122 FAX：0475-54-0630

オープンキャンパス 授業や実習の見学・ キャンパスツアー	
第1回	6 / 4 (金)
第2回	6 / 15 (火)
第3回	7 / 26 (月)
第4回	8 / 2 (月)
第5回	8 / 10 (火)
第6回	8 / 25 (水)
第7回	8 / 31 (火)

1日体験入学 実習体験・キャンパスツアー	
第1回	6 / 19 (土)
第2回	8 / 20 (金)

※ 実施時間 10：30～15：00
※ 申込締切 実施日の2週間前

※ 実施時間 10：20～13：15
※ 申込締切 実施日の2週間前

農業用パイプハウスの補強動画を YouTube で紹介

千葉農林水産部生産振興課

千葉県農業用ハウス災害被害防止計画推進連携会議(事務局：県生産振興課)は、令和元年度に作成した「千葉県農業用ハウス災害被害防止マニュアル」の内容について、農業者への一層の周知を図るため、動画を作成しました。YouTube で公開しており、パソコンやモバイル端末から視聴することができます。

1 取組背景と概要

本県農業は、令和元年の台風や大雨により、特に北総台地や南部地域の主力品目を支えるパイプハウスが大きな被害を受けました。

県では、関係機関と連携し、事業を活用した被災ハウスの再建や予防的補強を支援するとともに、パイプハウスの自力施工技術の普及を目的とした研修会を実施してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響等により、工事の完了までに期間を要しているのが現状であり、集合型の研修会も開催しづらい状況です。

そこで、連携会議では、生産者が農業用ハウスの補強等を自宅のパソコンやモバイル端末からでも学ぶことができるように、補強の方法を紹介する動画を作成し、ホームページにて公開しました。

2 動画

動画は5編から構成されており、補強方法別に解説しています。

- (1) パイプハウスの基礎知識、被災時の変形パターンや補強の概要
- (2) アーチパイプに取り付けるX型補強
- (3) 足場用直管パイプを側面に取り付ける補強
- (4) 妻部への防風ネット展張による補強
- (5) 筋交い直管パイプによる補強

この動画は、県のホームページ「千葉県農業用ハウス災害被害防止マニュアル (QR コード)」にある「パイプハウスの補強方法」の外部リンクから視聴することができます。

